

リスク管理への取組

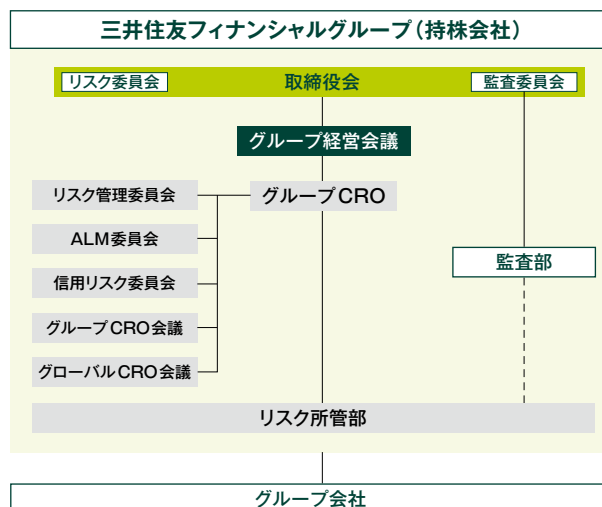
基本的な考え方

SMBCグループでは、コンプライアンス・リスク管理の強化を経営の最重要課題として位置付け、真に優良なグローバル企業集団の確立を目指し、その体制の不断の向上に努めています。

リスク管理体制

リスク管理の重要性を踏まえ、経営陣がリスク管理プロセスに積極的に関与し、その有効性と適切性を検証・モニタリングする体制としています。具体的には、グループ全体のリスク管理の基本方針およびリスクアペタイトをグループ経営会議で決定し、取締役会の承認を得たうえで、これらを踏まえたリスク管理の執行状況等についてグループCROが取締役に報告しています。

SMBCグループのリスク管理体制

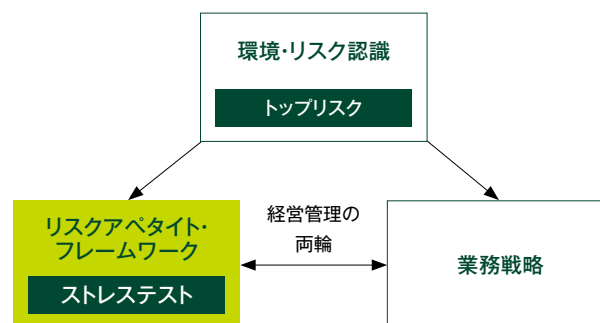


リスクアペタイト・フレームワーク

SMBCグループでは、収益拡大のために取る、あるいは許容するリスクの種類と量を明確にし、グループ全体のリスクをコントロールする枠組として、「リスクアペタイト・フレームワーク」を導入しており、業務戦略とともに経営管理の両輪と位置付けています。業務戦略等の策定にあたっては、経営上、特に重大なリスクを「トップリスク」として選定したうえで、ストレステストを実施しています。

また、自然災害やサイバー攻撃等への備えとして、重要な業務の継続や速やかな復旧を可能にする能力(オペレーショナル・レジリエンス)の強化等、レジリエントかつアジャイルなリスク管理態勢の構築に努めています。

リスクアペタイト・フレームワークの位置付け



リスクカルチャー

従業員がコンプライアンス・リスクの観点で適切に業務に取り組む際の拠りどころとして、Five Valuesの価値観に基づく「コンプライアンス及びリスクに関する行動原則」を制定しています。

持続的な企業価値の向上を実現するためには、役職員一人ひとりがリスクオーナーシップを持って判断し、それに沿った行動を行うことが不可欠です。社内のサーベイを通じて、従業員のコンプライアンス意識やリスク感覚の実態を把握するとともに、経営陣から従業員へのメッセージ配信や社内研修等を通じて、健全なリスクカルチャーの醸成に取り組んでいます。

コンプライアンス及びリスクに関する行動原則

